

福島第一原子力発電所見学における質疑応答

福島県立福島高等学校 SS 部

本資料は、平成 28 年 11 月 18 日に実施した福島第一原子力発電所見学において、バス車内およびJビレッジでの質疑応答を、生徒がまとめたものです。生徒の質問にお答えいただいているのは、福島復興本社石崎芳行代表または廃炉カンパニー増田尚宏 CDO です。

なお、原子力発電所の見学は保安上の理由からカメラの持ち込みを禁じられており、写真は当日東京電力が撮影したものを了解を得て使用しています。

(Jビレッジから福島第一に向かう途上で)

今回の福島高校の 1F 見学で、他の高校からの問い合わせはあるか？

予定はない。恐らくこのことを知ったら来るのではないかと期待。地元の高校生が来るのは歓迎。しかし申し込み自体はある。一般の方から申し込みが殺到している。

誰かの見学にこれだけの報道陣が来るのは？

初めて。報道陣のみの取材はあるが、誰かの見学にこれだけの数が来るのは初めて。最初、カメラ、記者、音声の 3 人で来ると言われていたが、2 人にしぼってもらった。新聞社は 1 人のみ。削ってもバスが満席。

今回福島高校の見学を知った避難区域の方から、見学の申し込み窓口が分からないとの質問がありました。避難区域の方の 1F 見学についてどうお考えですか？

誰もが見学できるものではない。HPに申し込み窓口を作ることはできない。避難区域の方に見ていただくことは大事だと考える。地域ごとに担当部署がある。その人たちが避難区域の方を回って、1F 視察のご案内をしている。今回質問いただいた方とのコンタクトがうまく取れてないのかも。役場に行けばわかるかも？避難区域の方に見学していただくのは歓迎。

廃炉完了後、新しい発電所を福島に作る予定はあるか？

原発を福島県に新しく作ることはない。2F のことも、新しい発電所の計画もない。まずは 1F の廃炉完了が最優先。今の時点では考える状況ではない。原発は止まっているので火力で賄っている。使い続けるのは環境に良くないのはわかっている。火力で賄うしかないという状況。広野火力も動かさなければいけない。日本で原発を動かせば火力の割合は減る。

作業員の人数が 6500 人から 6000 人に減ったという話を聞いた。大型休憩中などができたからだと考えられる。今後、作業の質はどう変わっていくか。また、作業員が必要になった時のアプローチはどうするのか。

人数は、30 年 40 年かかる中でどんどん変わって行く。業種も。建築、土木が必要だった。作業が変われば求められる人の能力、人数は変わる。それに伴って協力企業は変わる。会社の強みとかもちがう。あらかじめ提示すれば、企業が来るかも。世界に提示する必要あり。新しい技術や設備が入って来るかもしれない。

社員寮の話。壁が薄く、隣の部屋の音が聞こえる、という状況では、作業に支障が出るのではないかと？

社員寮は、J ビレッジのグラウンドにプレハブを急いで作った。プレハブができるまでは廊下で雑魚寝していた。雨もうるさかった。壁も薄く、4 畳。ただ寝るだけの部屋。今の社宅は 30 年、40 年と廃炉作業をする人がずっと住み続けられるように。客室では足りなかった。客室は改造して東電社員の執務室になった。

J ヴィレッジ返還後、モータープール施設は、どうなるのか？

来年の春には返還。準備中。復興本社は富岡町へ。社員寮も大熊へ。今年の夏から移動している。2000 台分の駐車場を一つの場所に用意するのは無理なので、いくつかに分ける。今の駐車場は作業員のもの。今はバスに乗り合わせて 1F へ。大熊、富岡、楡葉に駐車場。サッカーのピッチの上に鉄板を敷いて駐車場に。天然芝のグラウンドは、作るのも(整備するのも)復旧させるのも時間がかかる。一番手っ取り早い方法で駐車場を作った。当時はヘリや自衛隊の車も。

福島イメージアップ、海外の方に廃炉の現状を伝える活動はしている？

大事なこと。大使館に説明、大使館の方に来てもらう。視察も受け入れている。マスコミ、大学教授、電力会社、研究者。廃炉の現場に来てもらう。25000 人以上の方に来ていただいている。これからもどんどん受け入れる。私たち(高校生)に伝えてほしい。見てもらった上で話すのが大事。ぜひ伝えて欲しい。

日本の海産物を輸入禁止にしている台湾、中国。どんどん説明。韓国大使が

視察後、福島は問題ないと広めたら、バッシングを受けた。大使の話聞いた韓国の国会議員が視察に来た。見ると安心して帰る。

見てない人に資料や話をしても信じてもらえない。難しい。(上の韓国の大使の話のように) 話が噛み合わない。来てもらうことが大事。見た上で質疑応答。

海外の方ニュースは？

もうあまり福島のニュースが報じられない。風評を大きくしてはいけない。伝えていくこと。事故を風化させてはいけない。常に発信していくことが大事。発信しないと伝わらない。

海外と日本の見学団の反応の違いは？

大きくある。海外の方はチェルノブイリのイメージで来る人が多い。(石棺で封じ込めて、あとは為すすべがない。) 6000人の作業員と10000人の東電社員が働いているのを見て、現場の状況が少しずつ改善。それがびっくり。事故直後の映像のイメージしかない。イメージとのギャップに驚き。

海外と日本の見学団の反応の違いは日本の事故と海外の事故の実態(事故状況、内容など)の違いもある？

大きいのは、日本の今の状況が伝わってないこと。発信が届いてない。丁寧に、わかりやすく発信することは大事。

海外の方は、来た時と帰るときで印象、考えが違う？

日本人はすごい。6000人が働く、日本人の底力はすごい。6000人の半分が福島の人。廃炉は福島の方に支えられている。

確かにご迷惑をおかけしたが、福島の皆様といっしょに廃炉を成し遂げるといことが、世界から大きく評価されることになると思う。私たちは、みんなで力を合わせて頑張ろう、という気持ちでいる。

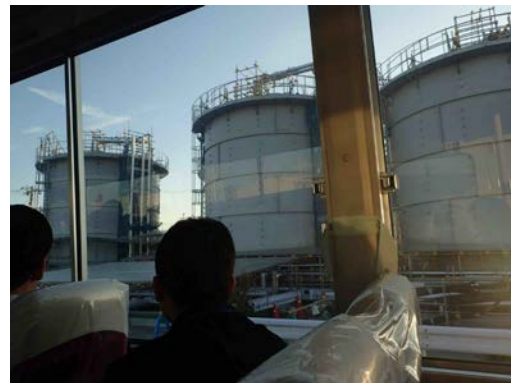
(以下は福島第一内での応答)

左側のテントのような建物

多核種除去設備 (63 の放射性物質のうち、62 を除去できる。) 全部で 3 つ。一番最初がこれ。特に人体に影響=セシウムとストロンチウム この二つをしっかりと除去。浄化した水は鼠色のタンクへ。一時期貯めて管理。いっぱいになると他のタンクへ。



タンクは敷地内に 1000 個。1 個あたり 1000 トン入る。今でも毎日作る。タンクを作るのに 10 人以上? ボルト式の方が人数が必要。溶接は信頼度高い。配管のつなぎ目から漏れたことはある。



フェーシング

土手モルタルを吹きつけてあり (フェーシングと言う)、草一本ない。これでかなり除染が進んだ。雨が地下水にならない。モルタルは 20 センチくらい。吹き付けるのはプロにお願いしないとできない。高速道路の技術。

1 号機

50 μ Sv/くらい。崖のへりあたりだと 150 μ Sv/くらい。そこは放射線が直接飛んで来るエリア。モルタルの壁の向こうが崖。降りればいける。舗装されていることでかなり除染効果が上がっている。10 分の 1 くらい。クレーンが落ちているので、それを取り出す作業をこれから行



う。無人のクレーンで。ハサミみたいなもの。テレビ画面を見て操作。がれきを切って、掴んでもっていく。

2号機

建物が残ったためにやっかい。最上階の部分を切って、使用済み燃料プールの燃料を取り出す作業をこれから行う。1号機の爆発の衝撃で窓が開き、水素が出たために爆発が起こらなかった。



3号機

背が低い。がれきを取り除いた。かまぼこ型のカバー、クレーンを付けて、使用済み燃料プールから燃料を取り出す作業をしていく。



地下水をくみ上げる井戸(地下水バイパス)

やぐら?の下の円筒形のものがポンプ。高台に12個。地下水をくみ上げる。建物に入る前に汲み上げて、検査して、問題なしなら海に放出する。漁業関係者から海洋放出の許可をもらうのに、1年以上説明。やっと了解をもらった。

陸側遮水壁の太いパイプ

バスの左側の窓から見えた太いパイプには、 -30°C の冷媒が流れている。海拔10メートルの1から4号機の周りにぐるっと。凍土壁のため。高台から。

2号機と3号機の間

2号機と3号機の間を通ると $650\ \mu\text{Sv/h}$ 。事故直後は $1500\ \mu\text{Sv/h}$ 。下がって来ている。

線量が下がったのは外壁とかを取り除いたからでしょうか？

それもある。フェーシングとか、雨とかも。半減期の法則。

4号機

リスクが大きく減った。使用済み燃料を取り出したから。

建物に残る線

津波の跡。海拔10メートルに15メートルの津波。バスが完全に隠れる。

原発を建設する上で津波とか地震とかのリスクは考えなかったのか？

元々、地震学会、福島県、国に、この地域には大体どのくらいの津波が来る、という基準がある。それに基づいて作ってはあった。その設計基準を大きく上回る津波が今回来た。その意味ではリスクに対する想像力が欠如していた。今は大反省。

今、大きい地震がきた時の対策は取られているのか？

ある。地震の揺れには、耐え得ることが確認済み。同じくらいの津波がきたときに怖いのは、地下に溜まっている高濃度の汚染水が引き波で持っていかれること。扉を金庫の扉にした。厚さは40センチ。

原子炉建屋内の汚染水が津波などによって外に漏れ出すことはないか？

ない。配管が壊れても他の方法で水を注入できるように何重にも対策がとられている。電源がやられても、電源車やバッテリーなどで対策。同じような地震、津波がきても以前のようなことにはならない。被害は最小限に抑えられる。

銀色の配管(陸側遮水壁)

1メートル間隔。海拔10メートルの場所に1号機から4号機の周りを囲んでいる。中には冷媒として -30°C の塩化カルシウム溶液がながれている。それを循環させている。地下30メートルまで打ち込んである。そのため、氷の壁ができる。地下鉄や海底トンネルの工事の技術。特別なものではない。



凍土壁の総額コストは？

あまり公表されていないが、数百億。問題は、冷媒の温度を保つためにかかる膨大な電気代。その電気代を払っているのは東電が負担。東電の電気を使っている。富岡町の新福島変電所は、元々福島で作った電気を東京へ送電していたが、いまはその逆。東京の電気を1Fに送っている。その電気を1Fで使用。年間10億円を超えると見積もっている。現在、原子力が停止していることで、ほとんどが火力で賄っている。その分燃料費はかかる。その燃料は、ほとんどが海外から輸入しているため、費用は海外に行っていることになる。

トリチウム水について。アメリカは大気放出を行っている。福島第一では、もし放出することになったら、海洋放出か？

今国の委員会で5つの方法が検討中。(蒸発させる、海洋放出、電気分解など。)この5つについて、さらに小委員会を組織して検討中。資源エネルギー庁のタスクホース。福島の方、科学目線で議論する方、社会学的な目線で議論する方がいる。国レベルで検討。そこで決まったことを東電が選択、実行。まだ議論が続いているため、どうするかは未定。待っている状況。アメリカのスリーマイル島原発事故では、アメリカは広い土地に巨大なプールを作って、トリチウム水を加熱して蒸発させた。海洋放出は、世界中の原発で行われている。国際的なルールに基づいて、再処理工場から出たトリチウム水を、基準値以下なら放出可能。日本の場合は、1リットルあたり60000ベクレル。それを下回ったからと言って、海洋放出することはできないので、国で委員会を作ってそこで議論している。化学的な目線だけではなく、みなさんと一緒に議論して、どう言う形が一番いいか、納得いくやり方か議論する必要がある。小委員会の様子はアーカイブになっている。そちらを参照。

アメリカの事故と今回の事故では状況や風評などの面が違うから？(トリチウム水の放出の対応について)

それもある。アメリカの場合よりも難しい。それは、デブリの場所も福島の方が厄介。デブリへのアタックの仕方も違う。

(デブリの取り出し方については「廃炉図鑑」に記載があった。)

事故の状況が異なり、前例のないことが多いからこそ応用が利かないのも大きい？

そういう意味では、事故を起こした廃炉作業は世界初。一般的な廃炉は、建物を解体して更地にするまでを言う。

廃炉後の跡地利用はどうする？

まだ全然考えてない。今は最終的にどうするかを検討（更地にすることを含め）までのロードマップを作ったので、その計画通りに進めることが最大のミッション。

（前の前例のない、という話から）NHKの「廃炉への道」。廃炉にかかる費用を、スリーマイル島原発事故の時の金額を、1Fで掛け算したりしていたが、それに関してどう考えるか。

それは見た。純粋に廃炉にかかる費用、賠償、中間貯蔵にかかる費用など、全部で18～19兆円。直接廃炉にかかる費用としては、東電として今後10年で2兆円を手当て。間に合うかはわからないが、とりあえず2兆円。それ以外にも賠償の支払いとか6兆円越え。もう少しかかりそう。

賠償について。「最後の一人になるまで」と聞いたが、実現可能だと思うか？

そうしなければいけない。そうする責任。この5年数ヶ月の間に亡くなられた方もいる。なるべくお一人お一人にお支払いするのが責任。

どこまでいったら「最後の一人」？

はっきりわからないところもある。避難されたまま、連絡がつかない方もいる。「東電なんか顔も見たくないから、金もいらないから来るな」、という方もいる。そんな方々にも、ご迷惑をかけた責任はあるので、支払うので請求書を書いてください、とお願いしている。今の賠償支払いの仕組みの中でお支払いできる分はしっかりお支払いする、というのが目標。

津波で流されたタンク

円筒形のタンクが津波によってねじられた。本当は3つ並んで立っていたが、津波で1個流された。恐らく引き波で捻れた？

防潮堤があったが、壊れた。今はテトラポットがある。一部残っている。倒れた。

海側にあったタンク

造船所などで作ってもらったものを船で運んで来る。大体10メートル。1200トンくらい入る。夜中にタイヤの多く付いた台車（運転台なし、リモコン操作）でタンクエリアまで運ぶ。

旧キャスク保管庫の入り口

扉がない。元々、外開きの鉄の扉があった。津波で内側に破られた。

フェンス

事故後に設けられたもの。事故前にあったものは全て壊された。

5号機6号機

ディーゼル発電機が津波の被害を受けず、使うことができた。

焼却炉

5年経ち、使い捨てのタイベックが70000トンたまる。焼却炉で体積を減らして灰を保管。手袋や靴カバーも使い捨て。これも灰にする。40分の1になる。それをドラム缶に入れて保管。10月末時点でドラム缶にすると7万本くらい。

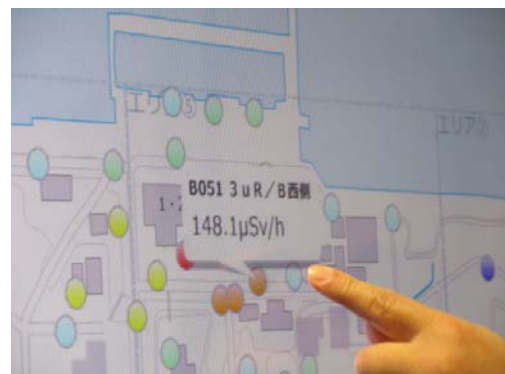
焼却炉ができる前はどのようにしていた？

専用の箱に入れて保管。これからそれを燃やして減量化、ドラム缶に詰めて保管。

免震棟前にある車。これは誰のものでしょうか？

ナンバーのない車は、震災時に汚染のため外に出せなくなったもの。まだ動くものは使っている。元々、作業する方々が車を乗り入れていた。その車。出せなくなったので、構内専用車として使っている。

免震重要棟のモニター前で



1F 構内の線量が一目でわかる。モニタリングポストの線量結果を反映。建屋周辺以外は比較的線量が低い。高台は低い。3月から運用。

免震重要棟の廊下がマットとか色々敷いてあったのはなぜ？

ここは昔の事務所ビル。大きく壊れてしまった。使えなかったところを除染して使っている。

免震重要棟の緊急時の対策本部

丸いテーブル、マイク。班長が座る。後ろはバックアップ部隊。当時、本部長席に吉田元所長が座っていた。円卓の真ん中。当時は今のように落ち着いた状況ではなく、円卓の周りを作業員が取り囲んで指示を待っていた。ぎゅうぎゅう詰め。平日 200 人の所員がここで勤務。



免震重要棟

免震構造になっている。震度 7 の地震にも耐えられる。原発では、事故が起これば想定済み。そのため、緊急時の本部というものもどこにでもある。免震構造の本部というものはなかなかない。2007 の新潟中越地震で柏崎刈羽原子力発電所の緊急時対策室が被害を受けた。緊急時の本部であるのに、ドアが開かなくなったりしたので、免震構造の本部を作った。事故の半年くらい前にできた。ここで事故の指揮をとることができなかつたらもっと被害は大きくなっていただろう。マイクは通信用。言ったことはモニターに表示されている各所に送られる。東京本社、1F 内免震重要棟（本部、事務館）、2F、柏崎、福島県庁に送信。事故当時は、電気はもちろん、通信状況もよくなかった（電話がかからない、FAX が送れない、など）。これは事故の状況を各自治体に伝えられないということ。本当に申し訳ない。ここは通信が生きていたため、情報共有ができ、本店のアドバイス、こちらの状況を伝えることができた。これは非常に機能した。

事故当時、免震重要棟も汚染された

爆発があり、原発で作業員も出入り、ドアも歪んだ。放射性物質が中にも入り込んだ。外はもっと。ここでタイベックを着て作業していたこともあった。全部除染。床も張り替えたり、空調を綺麗にしたり。部屋に入る前に通ってきたゲートも 1 年後に設置。徹底的に綺麗にして、放射性物質を部屋に持ち込まない。東電が用意した作業服で仕事ができるように準備などもした。

ダンボールのような壁

鉛が入っている。鉛は遮蔽体。

免震重要棟を徹底的に除染する理由

ここで執務するのはもちろん、緊急作業はかなりの被曝をしてもその瞬間は許される。具体的には 250mSv/年。150 名くらいは 100mSv/年被曝した。その後、法律が元に戻って 5 年で 100mSv/年に。その途端、100mSv/年を浴びた、技術や技量を持った人がここにいられなくなった。そのため、ここにいってもいいように、徹底的に除染してゲートもつけた。

壁の向こう

当直体制になっている。原子炉の状況、臨海状況を遠隔監視（温度、圧力など）する場所である。24 時間体制で監視。今は落ち着いているが、事故当時は床にも人が寝ていた。

窓がない

ウェブカメラがあるが、当時は分からなかった。爆発も、作業員さんがここに入ってくるまで分からなかった。原子炉の遠隔監視の部屋もなかった。被曝をしながら 1 号機、2 号機の中央操作室まで行き、懐中電灯で照らしながらメーターで温度、圧力を確認した。

全面マスク

視野が狭くなる。自分の声がかぐもって聞こえる、暑い、蒸れる、ゴムが当たるあたりがかゆくなる。アイコンタクト（自信を持ってやっているか、体調が悪いか、



など)。仕事のやりづらさにも繋がる。2、3万円する。着けるのも外すのも大変。

全面マスクをつけた作業で、作業員の方々の意思疎通はどうしているのか

声を大きくする、サインを使う、事前に打ち合わせ・確認をする、など。全面マスクが要らない仕事を増やすということも大事。

タイベック、全面マスク、綿手袋、ゴム手袋 2 重。手袋には、外れないようにテープをつける。

路上に配線や配管がたくさんありますが、冗長性(システムの一部に不具合が生じた場合、システム全体の機能を維持し続けられるように、予備装置を平常時から運用しておくこと)の方はどうなっているのでしょうか？

大事なものは 2 重にするのが原子力の考え方。同じところに二本ではなく、別々に離して 2 本。電気についても、違うルートから 2 本でもらう。「2 つあったら必ず別々に」という考え。今の 1F では 2 重が限界。原子力発電所であれば、2 重 3 重にある。大事なものは 2 重にしてあるので、自信を持って大丈夫と言える。5 年かけて慌てて作ってきたので、本当に 2 重になっているのかは怪しい。ゆっくり、頭を冷やして見直しをしている。「基礎基本宣言」。30 年 40 年使い続けていく中で凶面を整備するとか、冗長性を持たせる。一番大事。大事な仕事の一つ。単一故障。原子力の場合、一つのものが壊れても大丈夫なように設計する。壊れても大丈夫なように、もう 1 ルートを作る。それをどう作るか、どういうシステムにするか。「多重性と多様性」。そういうことを考えながら仕事をしている。

大型休憩所

全部で 8 階建。7 フロアが休憩スペース。最上階は展望スペース。2 階に食堂とローソン。1 階には WBC。机と椅子があって、ミーティングができる、ちょっと昼寝も。シャワー室もある。

1F 構内のほとんどを軽装備で歩ける。1 号機 2 号機の周りがタイベックと全面マスク。その近くに着替え場所を作って、そこから 1 号機や 2 号機周辺の作業に行けるように。以前は J ヴィレッジから。

作業を終えて、J ヴィレッジに帰ってきて、冷めたおにぎりやサンドイッチを食べて、床で寝て体を休めて、また 1F の作業にあたる、という形だった。大

型休憩所が出来て、しっかり休んで暖かい食事が食べられるようになった。

靴カバー

実は念のため。去年、歩いている途中で靴カバーが破れてしまったことがあった。それを知らずに入退室管理棟まで来てしまった。それで線量を測っても問題なし。

着けてた手袋や靴カバー

全て放射性廃棄物に。これらを焼却。

国会や民間の事故調査書はどういう風に作ったのか

いろんな事故調査書がある。ヒアリングや資料の提出など。

それらの調査書は読んだ？

読んだ。調査書によって多少評価が違う部分もあった。社内報告書が1番詳しいと思っている。

具体的にどういった違い？

一言でいうと、「地震で安全上重要な設備が壊れたかどうか」の判断。東電が調べた限りでは、地震で安全上重要な設備が壊れた、ということはない。その後の津波で電源が失われたのはある。それが原因でメルトダウンに繋がってしまったと評価している。他の報告書では、「地震の揺れで壊れた重要な設備もあった」という評価をしているのもあった。地震によって重要な設備が壊れたのかどうか、という所は見解が分かれるところ。

津波で壊れたのか地震の揺れで壊れたのか分からないものもある？

地震があり、原子炉に制御棒が差し込まれて止まった。津波が来るまでのデータはちゃんと残っている。それぞれ正常に機能していたというのがデータを見て分かる。津波が来て電源が失われてからはメーターが読めなくなって分からない部分もある。少なくとも、地震で安全上重要な設備が壊れたというような評価はしていない。

アメリカのハーバードのビジネススクール（世界中のエリートが集まる。大

統領とか、起業家とかになるような。) から 50 人の見学者。1F を見るグループと行かないグループに分かれて見学。行かなかったグループは、オフサイトの町並み見学など。J ヴィレッジで合流してグループで討議した。廃炉を見て来たグループはイメージが変わった。日本はすごい。一生懸命作業をしながら作業環境を良くして粛々と作業する姿を見た。見なかったグループは「行けばよかった」。中には、「あなたたちは東電に騙されているんだよ。」と言う人も。見て来た人たちは、「お前は何をいってるんだ。」と。言い争いに。ここは喧嘩する場所じゃないから、となだめる事態に。しかしそうやって見ていただいたことはありがたい。

どんな人でも来てもらうのはとてもありがたい。「東電の言っていることは信用できない。」と思っている人がいるのも事実だと思う。一生懸命データなどを発表しているつもりだが、そのデータも嘘だろうと言われてしまうと議論が続かない。そのためには来ていただいて、自分自身でデータを確認して、「自分はこうだった。」「自分が見た感じはこうだった。」というのを知った上で話をすると噛み合うことがある。そう意味でも来てもらいたい。

お願いとしては、できれば定期的に来て欲しい。定期的に来てもらうと、現場がどう変わって言ったのか自分の目で確認できる。来ない人は、事故当時のマスコミの報道したイメージで凝り固まってしまっている。そこから先に進まない人もいる。

(見学した範囲では廃炉の現場が)普通すぎて驚きました。

J ヴィレッジ到着後すぐに増田さんが言った言葉。「普通の現場にしよう。」。本当に厳しい現場だけど、普通の現場にしよう。普通の現場とは、朝作業員の方が来たら「おはよう」と笑顔で挨拶して、1 日の作業を終えたら、「さようなら、また明日。」と言う現場。安心して不安を持たずに仕事ができる職場。それが「普通の職場」。「普通の職場にしよう。」を合言葉に頑張っている。

作業員の方も半分は福島の方。ご迷惑をおかけしたが、それでも一緒に頑張っている。支えられている。そう言う意味では、作業員の方々を応援して欲しい。貶されてばかりいてやるのと、頑張ってください、と言われて仕事をするのでは気持ちが全然違う。

作業をしてくれている人も、危ないところを安全にしよう、福島のためにやろう、と思っっているはず。

(以下はJビレッジに戻っての質疑応答)



デブリについて。議論が始まっていく見通しはいつ？

まだ議論はされていない。エネルギー庁の下に原子力の賠償と廃炉の支援機構がある。NDF。そこが中心になってロードマップのデブリに関わる部分を定めている。戦略的にどうするか。その中で議論。これから議論が進んで、取り出し方、保管方法などが決まっていくと思われる。その流れをよく見ていただきたい。まだ戦略プランができたところ。ホームページなどで取れる。

これからの廃炉を伝えていく上で、どんな人材が必要になってくると思われるか

大事。廃炉がどう行われているか。今日見た廃炉と事前のイメージは、おそらく違うのでは？「この職に就くときに、私自身通訳になります、と言っている。(増田さん)」。中で行われていることは、中の人専門用語ではよくわかっている。原子力業界の人はわかっているが、一般の人はわからない。外の人たちの感じていること、言っていることが1F内で働いている人に伝わっていない。相手に通訳がいれば、中と外の話が相互に伝える人がいればいい。通訳が良け

れば話も盛り上がる。通訳が悪ければお互い何を言っているのかわからないまま。認識のズレがある。中の人間と一般の人が考えていることには差がある。そこをうまく埋める人がいる。こう言う場で、外の人の考えを聞き、社内に伝える。感覚をうまく伝える。大人になったとき、「私が伝える人材になります。」と言ってくれると嬉しい。科学的なだけではダメ。

帰還困難区域の住民との賠償の支払いの問題など、社会的合意形成のタイムリミットはいつだと考えるか。

原発事故で強制的に避難させられてしまっている方々には申し訳ないと思っている。少しずつ帰還が始まっているのも事実。楢葉町、帰還が始まったが住民の10%ほどしか戻っていない。ただ単に、解除されたからと言って住民の方がすぐに戻られると言うわけではない。生活が成り立つわけではない。賠償で責任を果たすこと。それだけではまちづくりには繋がらない。東京の社員も、入れ替わりで毎日、2泊3日くらいで福島に来て、各地に散って、庭の手入れや草むしりをしている。それも大事なこと。それを行なった東電社員は延べ30万人を超えた。東電社員は33000人。1人10回は行なっていることになる。しかし、それだけではまちづくりには足りない。仕事場、病院、スーパーが必要。それは東電だけではできない。国や県の力を借りながら、地元のニーズを発信して、国に予算を出してもらおうなどしている。間に立つつなぎ役的存在でなければいけない。電力会社自らが仕事を生む。発電所、広野火力。最新鋭の石炭火力の増設を行なっている。いわきでも東北電力との共同開発。最大1日2000人の雇用を生み出すことができる。仕事を作れば人が集まる。そうすれば、お店なども自然と集まってくるだろう、と思っている。社宅。帰還が許されていない地域に、特別許可をもらって建てた。社員が住む。復興本社も富岡町に移した。帰還困難区域で、東電社員が制服を着て元気に仕事をする姿を見て、安心して、戻っていただけないかと思っている。まちづくりのために、ありとあらゆることをやる。風評被害を払拭するために、「福島応援ネットワーク」の立ち上げ（廃炉図鑑を参照のこと）。ロコミで福島を発信してもらおう。福島復興のタイムリミットはないのではないかと考えている。廃炉よりも、まちづくりの方がかかるのではないかと考えている。

イギリスのセラフィード社と、チェルノブイリに視察に行ってきた。セラフィード社は、60年前に原子力事故を起こした。何度も事故を起こしているが、

セラフィード社と地元住民との信頼関係はすごい。何故かと問うた。「何を言ってるんだ君は。俺たちは60年間住民の皆さんと交流して、信頼関係を築いてきたんだ。60年かかっているんだ。60年続いているんだ。東京電力が5年やそこらで信頼が回復できるなんて思うのはとんでもない!!」と怒られた。まちづくりは東電と住民の皆さんとの信頼関係がベースにないとできない。タイムリミットなどなく、住民の皆さんと共存、協力を求めていかなければならないと思う。

なぜ今回、私たちの見学を受け入れてくださったのか。もし他の高校から問い合わせがあった場合、それを受け入れていたか。

18歳未満の視察の申し込みは断るのが社内のルールだった。早野先生からお話があり、断った際、その根拠はなんだと聞かれた。よくよく調べて見たら、法律的な規制はなかった。今回は、親の許可を取ることを条件に視察を受け入れた。いろんな方にも見ていただきたい。見ていただければ、自分の目で現場の実態や雰囲気わかる。分かった上で議論をすると、お互い共通の認識があるので議論がかみ合うところもある。そういう意味では、我々（東電）も勉強になる。それに対して、わかりやすいかどうか反省はする。そういうことの積み重ねで実態もわかっただけのし、将来的には福島の皆様ともう一度信頼関係を構築したい。そういう意味で、今回の視察の申し込みをお受けした。

事故後、東電は予算を廃炉、除染、賠償の3つに分けているがその総額は12.7兆円（見学後の12月9日、経産省は21.5兆円に上るとの試算を公表）と一つの企業では支払えないような金額。その中には、国や他の電力会社からの間接的な支援もあるのではないかと推察するのだが、仮に国や他の電力会社から間接的な支援を受けられず、東電が破産してしまった場合はどうするのか？

「東電を潰してしまえ」と言う方もいる。東電は福島の皆様に対する責任を果たすために生かされている、と感じている。賠償などの責任を果たすために。そういうことを社員一人一人が認識。賠償に関しては、国からお金をお借りしてそれを賠償に当てている状態。お借りした分は、利益を上げて少しずつ返していく仕組み。賠償は6兆円を超えているが、まだまだかかる。除染費用もトータルいくらになるかわからない。中間貯蔵施設の費用も。借りたものは時間がかかってもきちんとお返しする。今の会社の使命。東電を潰せ、と言っている方に対しては、「それは福島の皆様さんに失礼です」という言い方をしている。

廃炉や賠償や除染を、東電を潰したら誰がやってくれる？その責任を果たすために、33000人の社員が必死に頑張っている。これからも責任を果たすために精一杯やっていく。そういう会社だと理解していただきたい。廃炉のためにお金を使う会社になってしまっているが、大事にお金を使いながらも、安心していただくためにそういうところにはしっかりお金を使う。廃炉が進まないと復興も進まない。一緒にやっていくことが大事。

今年の4月から電力自由化。電力会社が選べる。そこで、東電は他の電力会社に先んじて会社を分割。発電、送電、売電。この上に本社を置く。復興本社もホールディングスに置いてある。復興本社は稼げる会社ではない。発電、送電、売電の会社の利益分をホールディングスが吸い上げて、福島への責任を果たす。東電を電力自由化の中で選んでもらうには、福島で何か起こしてはいけない。何か起これば、電力自由化の中で東電は選択されなくなる。東電を選んでもらうには、廃炉を安定させる。廃炉がいかに安定して、皆さんが気にしないで済むか。そこまで持っていくのが大事。

街の復興は会社としての信頼がないとダメ。信頼がないと、電力自由化の中では生き残れないし、生き残れないと福島への責任を果たせない。まずは、皆さんとの信頼関係を取り戻すこと。

(糸井さんへの質問)

通訳の話。糸井さんがまさに通訳ではないか？今後、文化的な、社会的な立場からどのように廃炉に関わっていきたいとお考えか？

糸井さん 通訳になれるかなれないかはシチュエーション次第。とても通訳が上手な人がうまく語れたとする。人々は納得して帰ったが、翌日集まってみると「あの人にいいように丸め込まれた!!」となる。どう伝えるかのコミュニケーションの問題。通訳ができる人は山ほどいると思う。「誰が言ったか」、「自分にとってあってほしい未来にどう繋がっているか」ということ。受け手の側が事実を決めてしまう。コミュニケーションがうまくなれば、必ずしも通訳がうまくいくものではない。この考えは違う、と思っても、それがそのまま「違う」という説明ができてなかなか納得してくれない。通訳という立場も、ある色で見られるものだと思う。開沼さんは見事に通訳をしてくださっている。あのようにはできない。これからも関わっていきたい。「どっちが正しい」、「どうすべきか」の立場に加わっているのではなく、「こういう方法もある」、「こうやっ

たらこんなふうに面白い」、「よその県の方は逆に福島を羨ましがっている」とか、そういうものをどれだけ生み出せるか、というお手伝いできないかという考え方。福島高校にこういう子達がいる、ということが伝わったら、「高校生のクセにすごいじゃないか」と言われたら、他の高校も燃える。今世界中で稼働している原発。400-500。それらはいずれ廃炉になる。その時、ここがたまたま事故で始まった廃炉の研究、実行で今までの考えを塗り替えていったこと。そのプロセスは「廃炉の先生」だと思う。例えば中国が廃炉作業をする時、日本の企業に依頼したら、火消しの役として仕事ができるのでは？そういう目で、福島の高校生がそういう仕事してみようかな、と思うかもしれないとか。絶えず何か足りないところを補う通訳ではなく、面白いイノベーターを育てていく。そういうモデルが増えていくほうがみんながいい方を向いてやれるのでは？そういうことがお手伝いできればいい。

(以上)

(平成 29 年 2 月 15 日修正)